～希少がんを知り・学び・集うセミナー！～

希少がん　Meet the Expert 2018

第 13 回 「悪性黒色腫（メラノーマ）」開催レポート

第 13 回「希少がん Meet the Expert」が 1 月 5 日（金）、国立がん研究センター希少がんセンターにて行われました（共催：がん情報サイト「オンコロ」、認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン）。今回のテーマは「悪性黒色腫（メラノーマ）」。同センター中央病院 皮膚腫瘍科の山崎直也先生をお迎えし、講演いただきました。司会は希少がんホットライン担当看護師 加藤陽子さんです。

本セミナーは、昨年(2017)1 月より始まり、本年は毎月 2 回の開催となります。今回は、年明け早々にもかかわらず定員を超える 33 名の参加がありました。まれながんである希少がんも、日々進歩を続けています。1 年前に行われたメラノーマのセミナーからどのような進歩があったのかが注目されていました。

講演では、治療戦略として本格的になってきた「治療薬や治療法の併用療法」のほか、「手術方針の変化」「画期的な術後補助療法」などについてのお話がありました。

併用療法では、近年目覚ましく進歩している「免疫チェックポイント阻害薬」と「分子標的薬」を中心に解説がありました。

免疫チェックポイント阻害薬では、抗 CTLA-4 抗体の「ヤーボイ(一般名:イピリムマブ)」と、抗 PD-1 抗体の「オプジーボ(一般名:ニボルマブ)」の使用順序による、効果や副作用の違いなどを解説。「治療戦略が難しいが、期待もできる」(山崎先生)とのお話でした。

分子標的薬では、BRAF 阻害薬と MEK 阻害薬を併用することで、BRAF 阻害薬の弱点である「効き目の短さ」や「別の

皮膚がんになる可能性」を解決できたとのことでした。

そのほか、メラノーマではあまり有効ではないとされる放射線治療に免疫チェックポイント阻害薬を併用することで高い効果を得られる場合もあり、さらには放射線を当てていない腫瘍にも効果がみられることも分かってきたということや、がん細胞にのみ感染する「腫瘍溶解性ウイルス」についてのお話、再発予防のための新しい治療法が今年は日本でもいくつか実用化されるであろうという情報もありました。

続いての Q&A では、山崎先生と加藤さんに、オンコロの濱崎晋輔さんが加わって行われました。ここでの話題は、「治験について」「地域による専門医や情報の差」「オプジーボの副作用である白斑について」など。山崎先生は、「もし、治験が“終了している”となっていたとしても新しい治験の情報は短期間に入れ替わるのでまずは国立がん研究センターに問い合わせてみてください」とお話されました。

今回のセミナーは、これからのメラノーマ治療に希望を見出せるような内容となりました。山崎先生は、講演中も参加者に語りかけるように丁寧に解説されていました。「各地方に治療法の伝達ができるようにしていく。特に今年からはガラッと変わってくる」との言葉は力強いものがあり、参加者は、最新医療情報を得ると同時に、山崎先生の医療や患者に対する心意気を感じられたのではないでしょうか。（詳しくは動画をご覧ください）

（開催日：2018 年 1 月 5 日／文:木口マリ 写真：中島香織）

【共催】

国立がん研究センター希少がんセンター/認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン/がん情報サイト「オンコロ」

【後援・運営協力】

株式会社かるてぽすと/樋口宗孝がん研究基金/株式会社クリニカル・トライアル/株式会社クロエ